

# NSG

GROUP

# NSG グループ

## 2021年3月期第1四半期決算報告

(2020年4月1日～ 2020年6月30日)

日本板硝子株式会社  
2020年8月6日

**楠瀬 玲子**

執行役常務 CFO

**クレメンス・ミラー**

代表執行役副社長兼COO

**イアン・スミス**

執行役 グループファイナンス担当ディレクター

# 目次

1. 2021年3月期第1四半期 決算概要
2. 2021年3月期第1四半期 事業状況
3. 新型コロナウイルス感染症の事業影響
4. 2021年3月期見通し
5. 今後を見据えてのアクション
6. まとめ

## 2021年3月期第1四半期 決算ハイライト



### 2021年3月期第1四半期は新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大の影響を大きく受ける

売上高	919億円 (△552億円)	COVID-19影響に伴う出荷減により、前年同期比△38%（為替影響を除けば△34%） 太陽電池パネル用ガラスは引き続き需要堅調
営業損失 （無形資産償却後）	△6億円 (△94億円)	売上減により大きく減益、コスト削減で一部相殺
営業損失 （COVID関連 個別開示項目後）	△121億円 (△209億円)	主に4月-5月にかけてのCOVID-19に関わる費用（設備 休止費用等を含む）計上の影響
親会社所有者に 帰属する当期利益	△164億円 (△193億円)	大幅な売上減と営業損失による影響
フリー・キャッシュ・フロー	△467億円 (△199億円)	当期損失に加え、運転資本の季節変動等による影響

( ) 内は前年同期比増減

2020年8月6日 | 2021年3月期第1四半期決算報告

5

2021年3月期第1四半期のハイライトです。

当第1四半期の業績は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け、減収減益となりました。

売上高は、世界各国で外出制限が実施された影響などにより販売数量が減少したため、前年同期比38%減の919億円となりました。販売数量は、4月から5月に大きく落ち込みましたが、6月は大幅に改善しました。一方、太陽電池パネル用ガラスの出荷はほぼ影響を受けることなく堅調に推移しました。

営業損益ですが、コスト削減効果が寄与しているものの、売上高減少の影響が大きく、6億円の営業損失計上となりました。

なお、当社グループの事業業績を示す「営業損益」ですが、ピルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却費が減少してきたため、当第1四半期より、従来の「無形資産償却前営業利益」に代えて、「（無形資産償却後）営業利益」へと変更しています。当第1四半期におけるピルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却費は4億円でした。

また、当第1四半期において、個別開示項目に新型コロナウイルス関連費用115億円を計上しており、ここには感染拡大による設備休止費用等が含まれています。新型コロナウイルス感染拡大の業績影響をよりわかりやすくするため、当該費用控除後の営業損失を「COVID関連個別開示項目後営業損失」として別建てで表記しています。

親会社所有者に帰属する当期損失は164億円でした。

フリー・キャッシュ・フローは、当期損失の計上と運転資本の季節変動等により、マイナスの467億円となりました。

# 連結損益計算書



売上は前年同期比大幅減となるも、6月の回復によりQ4時の想定に対しプラス

(億円)	2020年3月期 4月-6月期	2021年3月期 4月-6月期	前年同期比 Q1実績及びQ4時想定	
売上高	1,471	919		
営業利益 / (損失) *	88	(6)		
個別開示項目 (COVID関連)	-	(115)		
COVID関連個別開示項目後 営業利益 / (損失)	88	(121)		
個別開示項目 (その他)	(6)	(1)		
金融費用 (純額)	(35)	(24)		
持分法による投資損益	5	(4)		
税引前利益 / (損失)	52	(149)		
当期利益 / (損失)	31	(165)		
親会社の所有者に帰属する当期利益 / (損失)	29	(164)		
EBITDA	175	61		

	前年同期比	当初想定 (5/22開示)
建築用ガラス	△25%	△30~40%
自動車用ガラス	△50%	△50~60%
高機能ガラス	△20%	△10~20%
グループ売上	△38%	△40~50%

グループ売上 前年同期比月別推移		
4月	5月	6月
△52%	△46%	△14%

\*: ビルキントン買収に伴って発生した無形資産償却後。当Q1の償却費は4億円

2020年8月6日 | 2021年3月期第1四半期決算報告

6

連結損益計算書になります。

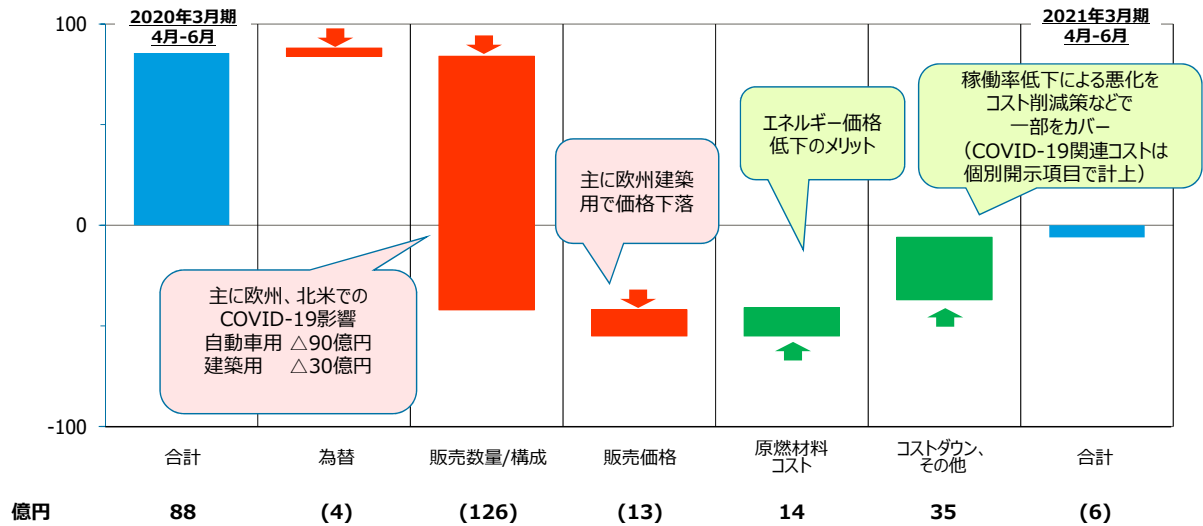
売上高および営業利益については、先ほどお示した通りです。当第1四半期の業績は厳しいものとなりましたが、売上高の減少幅は5月に説明しました見込みよりも小幅になりました。これは、6月の需要回復が想定より上回ったことによるものです。

ネット金融費用は、支払利息の減少や、為替変動の影響等により前年比改善しました。

持分法による投資損益は、主にブラジルのセブラセ社の業績悪化の影響を受けました。

# 営業利益差異分析 (無形資産償却後)

自動車用ガラスを中心にCOVID-19に伴う著しい数量減の影響を受ける



2020年8月6日 | 2021年3月期第1四半期決算報告

営業利益について、前年同期との差異について説明しています。

「販売数量/構成」ですが、主に欧州と北米において、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けています。事業別で見ると、自動車用ガラス事業の方が建築用ガラス事業よりも大きく影響を受けました。

「販売価格」ですが、主に、建築用ガラス事業の欧州で前年比マイナスとなりました。

「原燃材料コスト」は、エネルギー価格の下落などにより、改善しました。

「コストダウン・その他」は、稼働率低下による悪化をコスト削減策などで一部カバーしています。ただし、新型コロナウイルス感染拡大によって生じた休止設備費用などは個別開示項目へ計上しており、この営業利益には含まれていません。

## 連結貸借対照表



単位：億円	2020年3月末	2020年6月末	増減
<b>資産</b>	<b>7,652</b>	<b>7,575</b>	<b>(77)</b>
<b>非流動資産</b>	<b>5,411</b>	<b>5,478</b>	<b>67</b>
のれん・無形資産	1,386	1,398	12
有形固定資産	2,945	2,969	24
その他	1,080	1,111	31
<b>流動資産</b>	<b>2,241</b>	<b>2,097</b>	<b>(144)</b>
現金及び現金同等物	436	365	(71)
その他	1,805	1,732	(73)
<b>負債</b>	<b>6,770</b>	<b>6,868</b>	<b>98</b>
<b>流動負債</b>	<b>2,004</b>	<b>1,783</b>	<b>(221)</b>
金融負債	587	703	116
その他	1,417	1,080	(337)
<b>非流動負債</b>	<b>4,766</b>	<b>5,085</b>	<b>319</b>
金融負債	3,763	4,077	314
その他	1,003	1,008	5
<b>資本</b>	<b>882</b>	<b>707</b>	<b>(175)</b>
親会社の所有に帰属する持分	736	560	(176)
非支配持分	146	147	1
<b>負債及び資本</b>	<b>7,652</b>	<b>7,575</b>	<b>(77)</b>

2020年8月6日 | 2021年3月期第1四半期決算報告

8

連結貸借対照表になります。

有形固定資産の増加24億円は、主に戦略投資によるものです。

流動資産のその他の減少73億円は、棚卸資産・売上債権の減少によるものです。

流動負債のその他の減少337億円は、仕入債務の減少によるものです。

資本合計は、主に当第1四半期の当期損失の計上により、175億円減少しています。



## 連結キャッシュ・フロー



単位：億円	2020年3月期 4月-6月期	2021年3月期 4月-6月期	増減
当期(損失)/利益	31	(165)	(196)
減価償却費	87	86	(1)
減損損失	6	-	(6)
資産売却益	(10)	(6)	4
法人所得税支払額	(32)	(12)	20
その他	11	12	1
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー（運転資本の増減考慮前）</b>	<b>93</b>	<b>(85)</b>	<b>(178)</b>
運転資本の増加	(194)	(221)	(27)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>(101)</b>	<b>(306)</b>	<b>(205)</b>
有形固定資産の取得	-	-	-
- 戦略投資等	(131)	(62)	69
- その他	(60)	(70)	(10)
子会社株式及び関連会社株式の取得	-	(33)	(33)
資産売却収入	20	11	(9)
その他	4	(7)	(11)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>(167)</b>	<b>(161)</b>	<b>6</b>
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>(268)</b>	<b>(467)</b>	<b>(199)</b>

2020年8月6日 | 2021年3月期第1四半期決算報告

9

連結キャッシュ・フローです。

フリー・キャッシュ・フローについては、先ほどご説明した通りマイナスの467億円ですが、借入による財務活動399億円で補い、手元資金は期末で当座貸越枠を含めて365億円を確保しています。

## 主要財務指標 (KPI)



ネット借入は当期損失とフリー・キャッシュ・フローの悪化により増加

	2019年6月末	2020年6月末	2020年3月末
ネット借入 (億円)	3,883	4,407	3,902
ネット借入/EBITDA	5.3x	10.1x	7.1x
ネット借入/純資産比率	3.4x	6.2x	4.4x
自己資本比率	13.5%	7.4%	9.6%
	2020年3月期 4月-6月期	2021年3月期 4月-6月期	2020年3月期
営業利益率*	6.0%	△0.7%	3.8%

\*: 無形資産償却後営業利益ベース

2020年8月6日 | 2021年3月期第1四半期決算報告

10

主要KPIの一覧になります。

「ネット借入」は、当社グループの業績が新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたことに加え、運転資本の季節的な変動による増加により、前年度末から505億円増加し、4,407億円となりました。

「ネット借入/EBITDA比率」および「ネット借入/純資産比率」も業績悪化の影響を受けました。

「自己資本比率」は、当第1四半期において損失を計上したことによって、前年度末の9.6%から7.4%へ減少しました。

「営業利益率」は、先ほどご説明した通り、ピルキントン買収に伴って発生した無形資産償却費後の営業利益で算出しています。

## セグメント情報



(億円)	2020年3月期 4月-6月期			2021年3月期 4月-6月期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
<b>建築用ガラス事業</b>	<b>599</b>	<b>41%</b>	<b>57</b>	<b>449</b>	<b>49%</b>	<b>27</b>	<b>(150)</b>	<b>(30)</b>
欧州	232	16%		160	17%		(72)	
アジア	224	15%		192	21%		(32)	
米州	143	10%		97	11%		(46)	
<b>自動車用ガラス事業</b>	<b>768</b>	<b>53%</b>	<b>40</b>	<b>387</b>	<b>42%</b>	<b>(29)</b>	<b>(381)</b>	<b>(69)</b>
欧州	335	23%		166	18%		(169)	
アジア	174	12%		99	11%		(75)	
米州	259	18%		122	13%		(137)	
<b>高機能ガラス事業</b>	<b>101</b>	<b>6%</b>	<b>18</b>	<b>81</b>	<b>9%</b>	<b>14</b>	<b>(20)</b>	<b>(4)</b>
欧州	17	1%		13	2%		(4)	
アジア	80	5%		65	7%		(15)	
米州	4	0%		3	0%		(1)	
<b>その他</b>	<b>3</b>	<b>0%</b>	<b>(27)</b>	<b>2</b>	<b>0%</b>	<b>(18)</b>	<b>(1)</b>	<b>9</b>
<b>合計</b>	<b>1,471</b>	<b>100%</b>	<b>88</b>	<b>919</b>	<b>100%</b>	<b>(6)</b>	<b>(552)</b>	<b>(94)</b>

2020年8月6日 | 2021年3月期第1四半期決算報告

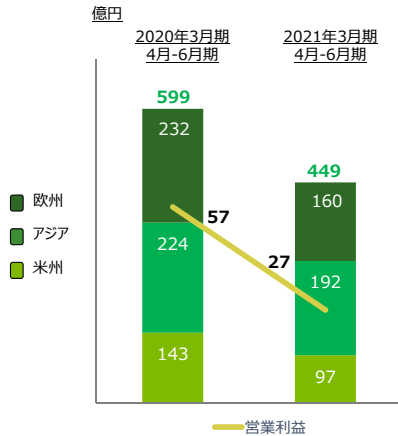
11

当社グループの事業セグメント毎の売上高・営業利益を示しています。

ご覧のように、自動車メーカーの生産中止の影響を受けた自動車用ガラスの売上高、営業利益が大きく低下しました。

## 建築用ガラス事業 2020年3月期第1四半期との比較

欧米を中心にCOVID-19による需要減の影響を大きく受け減収減益。太陽電池パネル用ガラスは堅調



### 欧州（減収・減益）

- 各地でのロックダウンに伴う出荷数量減、生産中止の影響
- 6月末にかけて大半の設備で生産レベルが回復

### アジア（減収・増益）

- 日本では他地域に比べてCOVID-19影響は比較的軽微
- 太陽電池パネル用ガラスの出荷が堅調に推移
- 千葉およびマレーシアのフロート窯（各1基）は計画通り休止

### 米州（減収・減益）

- 北米は太陽電池パネル用ガラスの出荷は堅調な一方で、一般建築用ガラスはCOVID-19影響により出荷減少
- 南米はCOVID-19影響に加えて為替変動の影響で減収

当社グループの建築用ガラス事業の業績についてご説明いたします。

建築用ガラス事業の業績は、新型コロナウイルス感染拡大による需要減少の影響を受け、前年同期を大きく下回り、売上高449億円、営業利益27億円となりました。

欧州の業績は、ロックダウンに伴う販売数量の減少と生産設備休止の影響を受けました。一方、6月末にかけては当社グループの事業所でも生産レベルが回復してきており、復調の兆しが見えています。

アジアは減収増益となりました。一部の事業所ではロックダウンにより生産を一時休止しましたが、他の地域に比べると新型コロナウイルス感染拡大の影響は比較的軽微でした。ベトナムからの太陽電池パネル用ガラスの出荷は、新型コロナウイルス感染拡大の影響をほぼ受けることなく、堅調に推移しています。

また、先般公表しましたとおり、千葉とマレーシアのフロート窯はそれぞれ計画通り操業を休止しました。

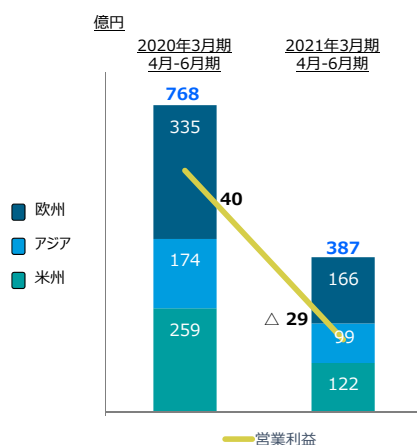
米州ですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、減収減益となりました。他の地域と同様に、米州でも需要の減少に合わせ、いくつかの生産ラインで生産調整を実施しました。

北米における太陽電池パネル用ガラス向けのフロート窯建設は、当初計画通り今年度下期の生産開始に向けて順調に進捗しています。一方、アルゼンチンにおける建築用ガラス向けのフロート窯増設投資については一時延期しています。

## 自動車用ガラス事業 2020年3月期第1四半期との比較



4-5月の自動車生産台数の激減により甚大な影響を受けるも6月に入り各地で生産は急回復



### 欧州 (減収・減益)

- COVID-19によるカーメーカーの休止で自動車生産が大幅減。補修用ガラスもロックダウン影響で低調

### アジア (減収・減益)

- 欧米地域に比べ影響は比較的小さいが、低稼働により収益は悪化

### 米州 (減収・減益)

- 北米はCOVID-19影響で数量減少するも、6月は自動車生産が想定以上に回復
- 南米の生産も通常レベルを大きく下回って推移

自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業の業績は、前年同期を大きく下回り、売上高は387億円、営業損失は29億円となりました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けましたが、6月に入り北米を始め各地で生産が回復しています。

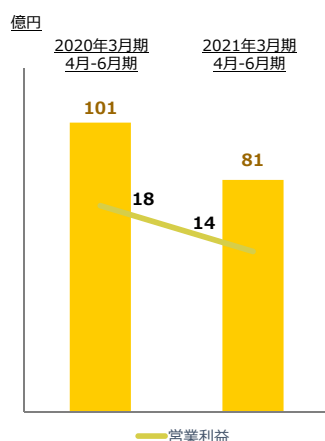
欧州においては、ロックダウンにより自動車販売が激減し、自動車メーカーも一時、生産を中止したことで、新車用ガラスの需要が大きく減少しました。また、補修用ガラスの需要も、ロックダウンにより自動車の走行距離が大幅に減少したことによる影響を受けました。

アジアにおいては需要の減少は他地域に比べると少なかったものの、工場の稼働率が低下し影響を受けました。

米州もロックダウンの影響を受けました。北米では自動車販売は継続したものの、自動車メーカーの生産中止の影響を受けました。南米は新型コロナウイルス感染拡大の影響が他の地域より遅く始まったこともあり低調な稼働となりました。

## 高機能ガラス事業 2020年3月期第1四半期との比較

### COVID-19影響を受けるも、他事業に比べて比較的軽微



#### 高機能ガラス事業 (減収・減益)

- ファインガラスは、COVID19影響による数量減を売上構成改善等で一部相殺
- プリンター用レンズは、需要軟化の影響を受け減収減益
- グラスコードは欧州自動車市場の影響を受け減収減益
- バッテリーセパレーターの業績は比較的安定

高機能ガラス事業です。

他の事業と比べると、新型コロナウイルス感染拡大の影響は比較的軽微ではありましたが、全事業減収減益となり、売上高は前年同期比20億円減の81億円、営業利益は前年同期比4億円減の14億円となりました。

ファインガラスは、売上構成の改善が新型コロナウイルス感染拡大の影響を一部相殺しました。

プリンター用レンズの需要は減少しました。

グラスコードは、欧州自動車市場の影響を受け、減収減益となりました。

バッテリーセパレーターの業績は安定しています。

# 新型コロナウイルス感染症の事業影響

## 経済再開を受けて、欧米でも操業を再開し徐々に正常化へ

建築用 ガラス	<p>6月以降各地域とも順次生産正常化へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>欧州：6月末時点で1窯を除き全窯稼働再開。一部は低稼働継続</li> <li>アジア：千葉・マレーシア各1窯は計画通り休止 それ以外は断続的に稼働率を落としつつもほぼ通常操業。ソーラー用はフル生産</li> <li>米州：北米は断続的に稼働率を落としつつも全ラインが操業復帰 アルゼンチンはフル操業、ブラジル（セブラセ社）、チリは低稼働継続</li> </ul>
自動車用 ガラス	<p>カーメーカーの生産再開に合わせて欧米も全事業所で操業再開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>欧州：生産再開し徐々に改善するも多くのラインで低稼働や断続的操業 夏季休暇も想定</li> <li>アジア：稼働率を落として生産継続、夏季休暇も想定</li> <li>米州：生産再開。北米は大きく回復、夏季休暇なし 南米は低稼働が継続。感染拡大の後ずれが生産性にも影響</li> </ul>
高機能 ガラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車関連製品は需要減のため、一部設備で稼働減を継続</li> </ul>
グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>原燃料材料の調達に大きな問題なし</li> <li>入念な準備により、安全かつ柔軟な事業再開を実現</li> </ul>

2020年8月6日 | 2021年3月期第1四半期決算報告

15

直近の生産状況についてです。

全事業・地域においてより正常な状態に向かいつつあります。

建築用ガラス、自動車用ガラスにおいては、特に影響の大きかった欧米でも、ロックダウンが解除されるにつれほぼすべての生産ラインで生産を再開しています。自動車用ガラスを中心にまだ低稼働ではあるものの徐々に回復に向かっていきます。

特に、北米の自動車用ガラス事業においては、自動車メーカーの在庫回復分も含めて、自動車生産台数が他地域より急速に回復しているため、当社でも夏季休暇なしで生産する予定です。また新型コロナウイルス感染拡大の影響がほぼない太陽電池パネル用ガラスについては引き続きフル稼働で生産しています。

生産再開にあたっては、当社グループでは入念な準備を行い、安全かつ柔軟な設備の再立ち上げができましたが、今後も各事業所において感染防止策を徹底した上で事業活動を行っていきます。

# 2021年3月期の改善アクション



## 2021年3月期の対策として現金支出の最小化・コストダウンに注力

### 手元流動性の確保

- 戦略投資を含め設備投資を減価償却費の範囲内に抑制、運転資本の増加も抑制
- 6月末までに400億円の融資枠を追加確保済  
6月末の現預金残 365億円、未使用融資枠残 732億円

### 全社緊急コスト削減プロジェクト

- Q1で、直接費および間接費を約100億円削減  
人件費（一時帰休・残業抑制・採用抑制・旅費交通費削減・公的補助金活用、  
役員・上級管理職報酬10%削減など）  
経費（修繕費抑制、内製化による外注・請負費用削減、消耗品費削減など）

### 働き方改革・効率化の推進

- オフィス部門は可能な限り在宅勤務に切り替え
- リモートワークのインフラ環境を整備（ネットワーク回線増、モバイルPC配布、ウェブ会議システム充実等）  
3月以降、取締役会、経営会議も含めて主要会議はリモートで実施
- これを契機に、働き方改革を推進

2020年8月6日 | 2021年3月期第1四半期決算報告

16

当期における改善アクションについてご説明します。

欧米で3月中旬からコロナウイルス感染拡大が深刻化したことを受け、当社グループでは種々の対策を実施しています。

最優先はキャッシュの流出を最小限にし、手元流動性を高めることです。

運転資本の一層の削減を図るとともに、全社で設備投資計画を見直し、戦略投資を含めた設備投資を償却費の範囲内に抑えることとしました。戦略投資についても、需要が堅調な太陽電池パネル用ガラスの投資は継続する一方、アルゼンチンの建築用ガラス窯新設の投資は一時延期しました。

また、新規の融資枠400億円を6月末までに確保し、6月末での未使用枠は732億円に増加しています。

次に収益の悪化を軽減すべく全社緊急コスト削減プロジェクトを立ち上げ、スライドに記述しております人件費を含め、いわゆる聖域なき徹底したコストダウン活動を行っています。第1四半期においても前年比100億円程度の削減を実現しました。

また、感染拡大をきっかけに働き方改革・効率化も推進しています。

リモートワークなどは従来から進めていましたが、世界各地で外出規制が始まったことで一気にグローバル展開ができました。日本でも3月上旬には事務所勤務者は原則リモートワークとし、経営会議や取締役会もリモート開催に切り替えました。実施してみて大きな問題はない一方、業務の見直しができたりメリットが大きく、今後とも世界中で働き方改革と一層の効率化を進めていきたいと考えています。



## 連結業績予想



COVID-19に関する設備休止費用等が個別開示費用に計上されることを反映。  
 下期は個別開示項目を含めた損益見通しが明らかになった段階で改めて開示

(億円)	2020年3月期	2021年3月期	2021年3月期	2021年3月期			
	通期実績	Q1実績	上期見通し	通期見通し			
売上高	5,562	919	2,100	4,600			
営業利益／(損失)	212	(6)	-	-			
COVID関連個別開示項目後							
営業利益／(損失)	190	(121)	(150)	(200)			
個別開示項目(その他)	(218)	(1)	(10)	-			
金融費用(純額)	(118)	(24)	(60)	-			
持分法による投資損益	11	(4)	0	-			
税引前利益／(損失)	(135)	(149)	(220)	-			
当期利益／(損失)	(175)	(165)	(240)	-			
親会社の所有者に帰属する						(前期比売上高)	
当期利益／(損失)	(189)	(164)	(240)	-			
					Q1実績	年間予想	
					建築用	△25%	△15%
					自動車用	△50%	△20%
					高機能	△20%	△15%
					グループ	△38%	△20%
	Q1	Q2/Q3予想	Q4予想	年間			
前期比売上高	△38%	△15%	△5%	△20%			

2020年8月6日 | 2021年3月期第1四半期決算報告

17

連結業績予想になります。

まず、業績予想の前提となる事業環境についてご説明します。

市場の前提ですが、建築用ガラス事業においては、ガラス需要は各地域でのGDP、建築活動などの先行指標を追従し、徐々に回復する想定です。また売上や利益計画にはアジアで2窯の生産を休止したことを織り込んでいます。

太陽電池パネル用ガラスは引き続き堅調な需要を想定しています。

自動車用ガラス事業では自動車生産台数が第2四半期以降、全地域で増加すると見込んでいます。

ただし、当社が事業行う主要地域である欧州、日本、北南米では年間トータルで、生産台数は前期比20%強のダウンを想定しています。

一方、補修用ガラスは経済活動の再開に合わせて新車用よりも早い回復を想定しています。

高機能ガラス事業では自動車市場の影響を受ける製品もありますが、自動車メーカーに対する1次サプライヤーではないため、影響にタイムラグが発生することを織り込んでいます。

グループ全体としては、売上高は、季節性の変動があるも徐々に回復し、年度末までには前年度に近いレベルまでの戻ると想定しています。これに加えて、先ほどご説明した全社緊急コスト削減プロジェクトを立ち上げ実行していますので、それにより、事業収益の回復を目指します。

これらを踏まえまして、売上高は上期2,100億円、通期で4,600億円、

「新型コロナウイルス感染症に係る個別開示項目費用」後の営業損失を上期150億円、通期200億円と見込んでいます。

なお、営業利益から個別開示項目に振替計上される「新型コロナウイルス感染症に係る個別開示項目費用」を合理的に算定することが困難であり、営業利益と個別開示項目の間での金額変動の可能性が大きいことから、営業利益予想については開示しておりません。

また営業利益以下の予想については、追加改善策の実施等について現在検討中であることから第2四半期までの開示としています。

今後とも業績予想は市場環境などを踏まえ継続的に見直しを行う予定であり、通期業績予想についても、合理的な予想が可能となった時点で速やかに開示したいと考えています。

また、配当予想について、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、連結業績の大幅な悪化が想定されることを踏まえ、期末配当は誠に遺憾ながら無配といたします。

# 今後を見据えてのアクション



## 事業収益を回復させ、持続可能な当期利益とキャッシュを生み出す

### 各事業の方向性

- 建築用ガラス：COVID-19の影響を受けるものの、比較的安定した需要を想定  
ソーラー投資は早期の利益貢献を図る。新しいビジネスチャンスの取り込みによるVA化の一層の加速（抗ウイルスガラス、エレクトロクロミック、BIPVなど）
- 自動車用ガラス：需要回復には数年かかると想定。需要減に見合った操業体制の早期再構築
- 高機能ガラス：新規の需要分野の取り込みを急ぐ（マシンビジョン向けSLA、抗菌タッチパネル用薄板ガラス、長寿命産業用バッテリーなど）
- ビジネス・イノベーション・センター（BIC）：PCR検査機「PicoGene® PCR1100」の早期事業化、次世代光通信デバイスの開発等
- R&D：UK政府補助金による「水素エネルギーによるガラス製造法開発」、「抗ウイルスガラス開発」、自動車ガラスCASE対応新商品開発等

### ノンコア資産・事業の売却も引き続き検討・実施

### 中長期の需要構造を見据えた抜本的改善計画を策定中

- 早期に実行に着手し、中長期の収益性改善、財務体質改善に結び付ける

2020年8月6日 | 2021年3月期第1四半期決算報告

18

現在の最優先は、まず短期の収益改善アクションをきちんと実行していくことですが、その先を見据えた各事業での取り組みが必要であり、このスライドではそれをご説明します。

建築用ガラス事業は、直近は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けていますが、中長期的には比較的安定した需要を想定しています。その中で当社としてまず第一に、戦略投資として行った太陽電池パネル用ガラスの生産増強が早期に利益貢献できるようにすることが重要と考えています。さらに市場の機会を捉え各種VA(高付加価値)製品の一層の拡販に努めます。

自動車用ガラス事業は、現在最も影響を受けている分野であり、コロナ以前の需要に回復するには数年かかると想定しています。このため需要減に見合った操業体制にいち早く移行させることが必要と考えています。

高機能ガラス事業でも需要構造が変化しており、新分野への取り組みを加速させていきます。

さらにビジネス・イノベーション・センターやR&D部門でも、PCR検査機の事業化をはじめ、様々な課題に取り組んでいます。

また、ノンコア資産・事業の売却も引き続き検討・実行していきます。

そして、現在はこれらに加えて、中長期的にも持続可能な利益・キャッシュ創出を可能とするべく、より抜本的な改善計画も検討しています。

この計画は別途しかるべきときにご説明したいと考えていますが、早期に実行に移すことで、中長期の収益性、財務体質の改善に結びつけていきたいと考えています。

## 今後期待する分野

Withコロナ、Afterコロナの社会で高まるニーズに対応し成長を目指す

### 健康

- PCR 装置「PicoGene®」：モバイル・リアルタイムの機能性が高評価  
国内外から問い合わせ多く評価継続中
- COVID対策製品：「ウィルスクリン®」をオフィス用等で用途開発  
同時に新製品開発も日米欧で注力  
北米の新製品はバスの窓や運転手保護壁としても対応

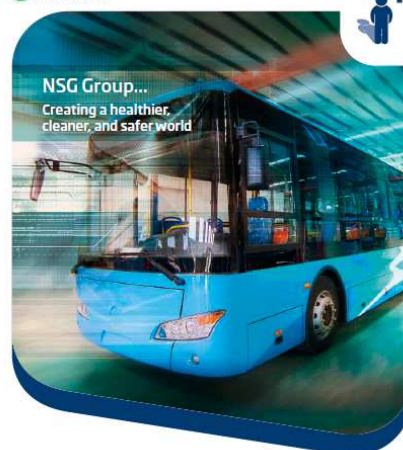
### 環境

- 薄膜太陽電池パネル用ガラス：需要は引き続き堅調  
ベトナム新ラインはフル操業  
北米新ラインも今期下期稼働に向けて建設工事進捗
- エレクトロクロミック用ガラス・BIPV用ガラス：  
多くのスタートアップ企業と協業し日米欧で市場開拓中

### 通信

大容量高速通信インフラを支える光学系素子やコーティング・加工技術を用いた開発プロジェクトが進行

PILKINGTON



今後期待する分野についてです。

新型コロナウイルス感染拡大の中で、「健康」「環境」「通信」といった分野は今後さらに注目され、かつ当社が強みを持つ製品群の活躍が期待できるエリアであると考えており、引き続き今後も注力してまいります。

## まとめ



### 2021年3月期第1四半期決算

- 全世界でCOVID-19感染拡大の影響を受け、前年同期比40%近い売上減。ただし6月の回復は想定以上
- 建築用ガラス：欧米を中心にCOVID-19による影響を受ける。太陽電池パネル用ガラスは堅調
- 自動車用ガラス：自動車メーカー生産中止の影響を大きく受けるが、生産再開で回復基調に転じる
- 高機能ガラス：自動車用途を中心にCOVID-19の影響を受けるが限定的
- 入念な準備により、安全かつ柔軟な事業再開を実現
- 追加資金を手当て済み。コスト削減・キャッシュ節減に全力で取り組み

### 2021年3月期の見通しと今後の取り組み

- Q1を底に緩やかな需要回復を想定。緊急コスト削減プロジェクト実行等により、事業収益の回復を目指す
- さらに、抜本的収益改善策を検討・実行し、持続可能な当期利益とキャッシュを生み出す事業構造への変革を図る
- Withコロナ、Afterコロナの社会で高まるニーズに対応し、成長を目指す

新型コロナウイルス感染拡大による需要の減少の影響を大きく受け、第1四半期は未曾有の厳しい決算となりましたが、6月は当初想定以上の回復が見られました。現時点で先行きにはまだまだ不透明な部分が多いものの、全体としては緩やかな需要の回復を想定しています。

しかし、今期の年度売上は前年度を大きく下回る想定であるため、全社あげての緊急コスト削減プロジェクト実行等により、事業収益の回復を目指していきます。

さらに、抜本的収益改善策を検討・実行し、持続可能な当期利益とキャッシュを生み出す事業構造への変革を図っていきたくと考えています。

## ご注意



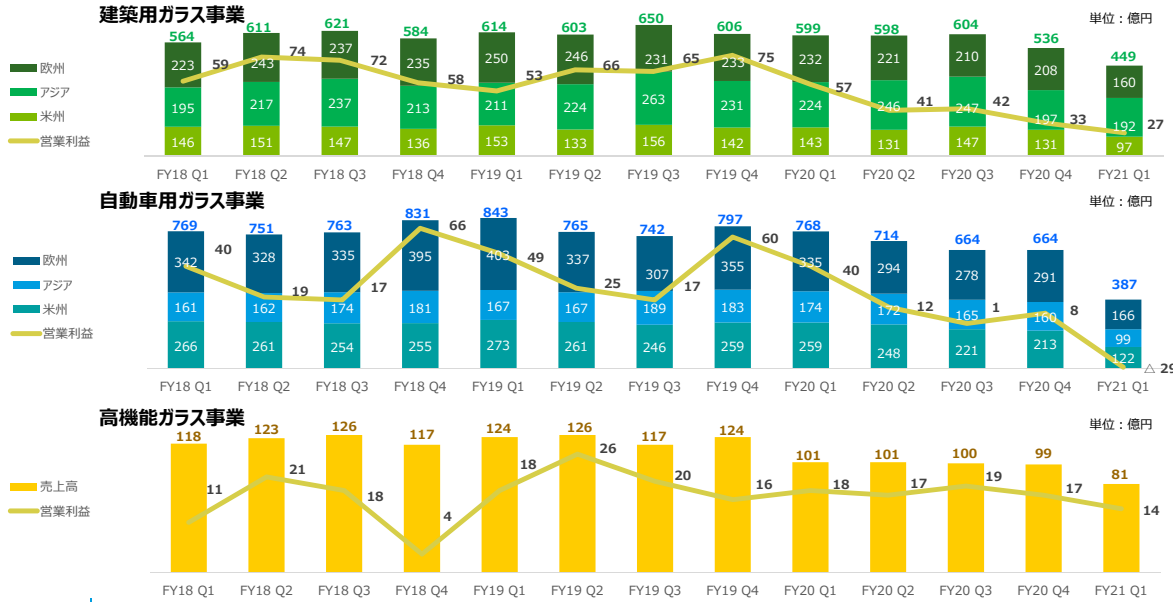
当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

## 補足資料

- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- 個別開示項目
- 2021年3月期業績予想 補足
- 為替レート等
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費

# 事業部門別・地域別売上高及び営業利益 四半期別推移



2020年8月6日 | 2021年3月期第1四半期決算報告



## 個別開示項目

単位：億円

	2020年3月期 4月-6月期	2021年3月期 4月-6月期
<b>収益</b>		
新型コロナウイルス感染症に係る政府支援による収益*	-	8
子会社及びジョイント・ベンチャーの売却による利益	10	6
その他	-	0
	10	14
<b>費用</b>		
新型コロナウイルス感染症による設備休止等に係る費用*	-	(123)
リストラクチャリング費用	(8)	(4)
設備休止に係る費用	(5)	(1)
有形固定資産等の減損損失	(2)	-
その他	(1)	(1)
	(16)	(130)

\* 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のまん延により影響を受ける直接費と回収不能な事業運営コスト、及びそれに関連して政府により支給される補助金を個別開示項目として計上。これらにはCOVID-19により生産活動に従事できない従業員への給与支払や休止設備の維持費用、施設の安全な作業環境整備のために生じた清掃費用などの直接費用を含む。（総費用 △123億円、政府支援による収益 8億円）

## 2021年3月期業績予想 補足



グループ	売上は、季節性的の変動があるも徐々に回復 年度末までに前年度に近いレベルまでの戻りを想定
建築用ガラス	経済活動は緩やかに正常化していく見通し。アジア2窯休止織り込み 各地域で需要がGDP、建築活動など先行指標を追従する想定 太陽電池パネル用ガラスは引き続き需要堅調
自動車用ガラス	欧州、日本、北南米での自動車生産動向に沿って回復 前年比20%強の台数減を想定 補修用ガラスはより早く回復
高機能ガラス	相対的にCOVID-19による需要減の影響は限定的だが回復のタイムラグを想定

# 為替レート等



## 期中平均レート

	FY2018				FY2019				FY2020				FY2021
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
英ポンド	142	144	146	147	149	147	146	146	141	137	138	138	<b>133</b>
ユーロ	122	126	128	130	131	130	129	129	124	121	121	121	<b>118</b>
米ドル	111	112	111	111	110	111	111	111	109	109	109	109	<b>107</b>
ブラジル・リアル	34.6	35.0	34.8	34.4	30.4	29.3	29.3	29.4	28.0	27.6	27.2	26.4	<b>19.9</b>
アルゼンチン・ペソ	7.06	6.74	6.65	6.30	4.70	-	-	-	-	-	-	-	-

## 為替感応度

他の条件に変動がない条件で、為替レートが他の通貨に対して1%円高になった場合の増加（減少）額

(億円)	FY2019	FY2020
資本	(33.0)	(31.0)
当期利益/(損失)	(2.0)	1.0

## 期末レート

	FY2018				FY2019				FY2020				FY2021
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
英ポンド	146	151	152	150	145	148	141	144	137	133	144	133	<b>132</b>
ユーロ	128	132	136	132	128	132	127	124	123	118	122	119	<b>121</b>
米ドル	112	113	113	106	111	113	111	111	108	108	109	108	<b>107</b>
ブラジル・リアル	34.0	35.4	33.9	32.1	28.6	28.2	28.5	28.3	28.3	26.0	27.1	20.8	<b>19.9</b>
アルゼンチン・ペソ	6.81	6.42	6.03	5.30	3.94	2.84	2.93	2.53	2.53	1.88	1.82	1.68	<b>1.53</b>

## 減価償却費・資本的支出・研究開発費



単位：億円	2020年3月期 4月-6月期	2021年3月期 4月-6月期	2021年3月期 見通し
<b>減価償却費</b>	87	<b>86</b>	370
<b>資本的支出（無形資産を含む）</b>			
通常投資	51	<b>22</b>	220
戦略投資、他	131	<b>62</b>	150
合計	182	<b>84</b>	370
<b>研究開発費</b>			
建築用ガラス事業	7	<b>5</b>	
自動車用ガラス事業	7	<b>5</b>	
高機能ガラス事業	2	<b>2</b>	
その他	7	<b>9</b>	
合計	23	<b>21</b>	90

# NSG

GROUP